

☆全国大会のこれまでと、これから☆

全国大会の歩み

第1回	H12年	東京足立大会	足立区西新井文化C	第9回	H20年	横須賀大会	横須賀芸術劇場
第2回	H13年	東京杉並大会	杉並公会堂	第10回	H21年	葛飾大会	葛飾シンフォニーH
第3回	H14年	山形天童大会	天童市文化会館	第11回	H23年	千葉大会	千葉県文化会館
第4回	H15年	横浜大会	神奈川県立音楽堂	第12回	H25年	宇都宮大会	栃木県総合文化C
第5回	H16年	宇都宮大会	栃木県総合文化C	第13回	H27年	江東大会	ティアラ江東
第6回	H17年	東京調布大会	調布市グリーンH	第14回	H29年	市川大会	市川市文化会館
第7回	H18年	札幌大会	札幌市民会館	第15回	R1年	江東大会	ティアラ江東
第8回	H19年	広島大会	広島アステール ヲサ	第16回	R3年	取手大会	取手市市民会館（予定）

SEの全国大会は上記の通り、これまでに15回催されました。第1回から第12回大会までは大ホールに集まった多くの市民の皆様へに私たち中高年のアマチュア楽団が、すばらしい演奏を披露し、感動して頂くことに重点が置かれ、出演者は団ごとに控室を用意して頂き、順番が来たら出演してまた控室でモニターTVを眺めるコンクールのような形式でした。しかしこの方式は全国大会を担当する楽団に大変なエネルギーを負擔させました。地方の楽団の場合、出演する楽団への「おもてなし」と大ホールを満席にするための労力が大変でした。その結果、全国大会を開催した札幌、広島、天童の楽団が開催後まもなく全シ連を脱退しました。これらの苦い経験に基づいて全国大会をすべて一楽団に担当して頂くことを改め、全シ連が全面的にバックアップし客席を満席にすることよりも、出演者に会場で他の楽団の演奏をつぶさに聴いて頂き、楽しみ合い勉強し合う方式に切替えました。この結果、第14回の市川大会ではSE千葉県連盟が総力を挙げた努力により、市川市文化会館を満席にできる見込みのところ、本番当日の千葉県を直撃した台風によって電車が止まるような悪天候で一般のお客様はごくわずかでした。しかし、客席は出演者でかなりカバーすることが出来、このことは私たちのこれからの全国大会のあり方を示唆してくれました。

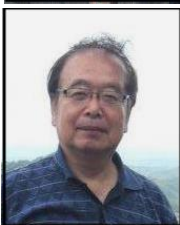
全国大会は各団が演奏技術を競うよりも、まず楽しく交流し、勉強し合うことこそが重要で、終了後の打ち上げなど交流を密にすることが重要です。但し各団の練習目標として、客席のアンケート調査により特筆できる3楽団程度を事後に公表することはこれまで通り継続してゆきたいと存じます。

今回、人類を襲ったコロナ禍によって、私たちの演奏などを涙を流して喜んで頂いていた福祉施設の多くがクラスターにより大被害を蒙り、私たちの出前演奏も当分の間は難しいと存じます。私たちの練習は全て発表の場を想定して選曲や練習スケジュールが組立てられます。これからは発表の場として各団の2年に1回程度の定期演奏会、ロビーコンサート、アフタヌーンコンサート、地域別の交歓演奏会、それから2年に1回の全国大会への出演が重要になってくるものと予想されます。11月の全国大会取手大会へのご協力をよろしくお願いします。

■ 訃報 全シ連で永年ご活躍頂いたお二人のご逝去。



お二人の氏名は全シ連の前理事長の芹澤昭仁氏（享年92歳）と元理事の月岡喜久雄氏（享年79歳）です。お二人とも一流大学（東北大学工学部、神戸大学法学部）を出られ一流企業に勤務のかたわらVnを趣味として習得され、アマチュアオーケストラで合奏の楽しさを経験され、北の杜アンサンブル（現ラルゴ）習志野シニアアンサンブルを設立され、代表として全シ連にも永年、参加され育成に尽力されました。



6年前のハワイツアーにも参加され、アラモアナセンター特設ステージでの演奏やオアフシビックオーケストラとの共演も楽しめました。このコロナ禍の異常時のため、お二人とも家族葬で葬儀をすまされた（芹澤様は昨年4月、月岡様は今年3月）ため、当連盟の対応が遅れました。全シ連としてこのほどお二人のご功績に対してラルゴの戸田代表、習志野シニアアンサンブルの戸塚代表を通してお香典をお供なえしました。

（以上 全シ連 岡村記）